

平成26年度事業報告（各委員会）

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』参照

平成26年度は【公益社団法人移行認定】を受け、日本連珠社の役員を中心に会員が【公益事業展開】をより深く理解・認識し、労苦を惜しまず実行していただいた1年間でした。その【公益事業展開】を強く意識した公式棋戦《マスターズ連珠王座決定戦＝愛称：マスターズ戦》を本部主催棋戦に新しく追加しました。一般の公式棋戦への参加を躊躇されることもある60歳以上の世界中の連珠愛好者を対象に、2日間以上で6回戦程度、一局持ち時間80分以上に設定して、ゆったりと休息も十二分に満喫しながら勝敗よりも大好きな連珠で楽しんでもらうことを目的とした棋戦であり、会員・非会員を問わず、＜一定以上の成績で昇段権付与＞という特典もある棋戦です。第一回の参加者全員に頗る好評を博しました。一方、非会員も含めた連珠愛好者の〔有志〕の方達が《公益社団法人発足記念祝賀会》を平成26年11月に東京都千代田区〔お茶の水ホテルジュラク〕で盛大に開催され、日本連珠社も式典プログラムに《日本連珠社三森政男理事長挨拶》や磯部泰山師の《第六世永世名人推戴式》などを入れさせていただきましたことを感謝するとともに、報告いたします。

日本連珠社の【公益事業目的】の一つに、『定款』第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。平成26年5月、台湾台北市で開催された「第10回連珠チーム世界選手権戦（国別団体戦）」で、日本選手団は2チーム12名（三森政男団長）が参加し、優勝こそ逃したものの、3位と5位と健闘したことを賞賛したいと思います。

第52期全日本連珠名人戦は、名人・中村 茂九段が挑戦者大角友希九段を一昨年に続き連破し名人位を防衛しました。会員の多くが仕事・学業と連珠の両立に腐心する中で、中村名人や大角九段、A級に進出した各選手、またそれを支えた各支局長・支部長他、各地の連珠会関係者、珠友、選手にも称賛を贈りたいと思います。

平成27年8月にロシア国で開催予定の「第13回連珠世界選手権戦」の国内代表選手を決める「第10期全日本連珠選手権戦＝愛称：珠王戦」も中村 茂名人が制覇しました。特筆すべきは非会員棋士に参加してもらえたことで、まさに【公益事業目的】にかなった棋戦になったことです。

毎年度各地域で公式戦が実施されていますが、参加者数で地域格差が広がっている傾向が一層顕著になっており、一般の非会員棋士も含めていかに多くの連珠愛好者の参加を募るかが今後の検討課題です。

インターネットは普及活動の施策上非常に有用であり、A級リーグ戦局譜公開や名人位挑戦手合いのライブ中継とくに大盤解説などが好評を博しています。各地の連珠会や公式戦にネット出身者が増加していますが、これらの連珠愛好者が会員になることは現時点では昨年度同様少ないのが実情です。メディアで継続して取り上げられることが連珠普及に最も効果的と考えられるので、プレスリリースの定期発信など、広報委員会のご活躍に期待します。

こうした状況下、各地域で連珠公認指導員を中心に、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続されたことは喜ばしいことです。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

（1）定時会員総会

- ・平成26年5月24日（土）13:35～15:30 於：江東区総合区民センター7階第4会議室
- ・出席会員数93名（うち委任状73名、会員総数118名、出席率79%）
- ・議長には飯尾義弘氏が選ばれ、書記に久保出美氏と小林高一氏が指名後、議事録作成者に久保出美氏を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、久保氏・宮川氏の2名を推薦し、満場一致で

公益社団法人日本連珠社 平成26年度事業報告

承認された。

- ・議事録を全正会員（特別会員・家族正会員を含む、以下同じ）に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2014年8月号に掲載し、平成25年度事業報告・収支決算、平成26年度事業計画・収支予算案、役員を選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳細を割愛します。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略）平成26年4月26日(土)～同5月3日(土)
 - ・出席役員 理事13名全員「同意書」提出、監事3名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：久保理事
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事3名）に配布した。議案が、会員総会議案「平成25年度事業報告・決算書報告等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 平成26年5月24日(土)10:20～12:30 於：江東区総合区民センター7階第4会議室
 - ・出席役員 理事12名（理事総数13名）、監事2名（亀井、辻：途中退席、監事総数3名）
 - ・議長：飯尾義弘副理事長（三森政男理事長欠席のため、定款第36条に定めた代行順）
 - ・書記：久保理事・小林理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事12名、監事1名
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名(荒谷光一監事6月12日ご逝去)）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2014年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 平成26年5月24日(土)15:45～16:45 於：江東区総合区民センター7階第4会議室
 - ・出席役員 理事13名（千木良誠理事追加、理事総数14名）、監事1名（亀井、監事総数3名）
 - ・議長：飯尾義弘副理事長（三森政男理事長欠席のため、定款第36条に定めた代行順）
 - ・書記：久保理事・小林理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事13名、監事1名
 - ・議事録を全役員（理事14名・監事2名(荒谷光一監事6月12日ご逝去)）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2014年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会 平成26年11月1日(土)14:30～15:35 於：千代田区ルージュラク内アカブルコ喫茶室
 - ・出席役員 理事10名（理事総数14名、小野・丸田両理事は議事録署名印持参忘れのため欠席扱い）、監事1名（亀井、監事総数3名）
 - ・議長：三森政男理事長、書記：久保理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事10名、監事1名
 - ・議事録を全役員（理事14名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2014年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (5) 第5回理事会（定款第38条決議の省略）平成27年2月21日(土)～同2月28日(土)
 - ・出席役員 理事14名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：久保理事
 - ・議事録を全役員（理事14名・監事2名）に配布した。平成27年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を機関誌『連珠世界』2015年4月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
 - ・三森理事長指示の下、業務委託契約先辻・本郷税理士法人の事務業務支援を得て、会員総会と理事会に関する資料等の作成、及び発送手配等、総務活動を遅滞なく行なった。
 - ・国及び指導官庁からの書類などの提出要請に、業務委託契約先辻・本郷税理士法人の事務業務支援を得て、遅滞なく適切に回答し、HPにもメディア委員会の協力を得て公開した。
 - ・事務局は久保出美理事のもと、毎月の機関誌の送付者・部数管理及び珠友や一般人からの各種問い合わせに遅滞なく回答し、段位免許状作成・発送、依頼を受けた普及資料などの発送他、円滑な事務運営に努めた。
 - ・樋渡喜久磨理事が、連珠関連図書などの整理保管を継続して行なった。

(2) 普及推進委員会

- ・本会会員がリーダーとなって各地で連珠普及・指導や競技会の開催や指導を行なっている。おもな各地の連珠会はホームページ掲載のとおり。
- ・会員がボランティアで用具を提供し定期指導を行ない、連珠の普及活動に努めた。
- ・参加資格を60歳以上に限定した、高齢者福祉という【公益事業目的】の公式棋戦《マスターズ戦》を開始し、不定期ではあるが今後も継続開催することになった。
- ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年たちの連珠に対するボランティア活動を継続実施し、公益目的事業を継続推進し、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ・公的施設への継続した機関誌の贈呈や上記ボランティア活動に対する、感謝の手紙などを受け取っている。

(3) 財務委員会

- ・三森理事長指示の下、財務委員（久保・安本）間で協議し、業務委託契約先社・本郷税理士法人の事務業務支援を得て、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。一方、より緻密な財務管理のため、資産及び負債勘定科目を適宜増やし、平成27年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。また収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。

(4) 広報委員会

①メールマガジンの週刊発行

以前より日本連珠サービスの発行、広報委員会協力で行ってきた。3月末で週刊にて775号の発行を継続中。読者は500名弱。読者数はやや下降気味であるが、継続する。

②過去の書籍・雑誌のデータ化

『連珠世界』を始め過去の連珠雑誌・書籍のデータ化(PDF)を実施中、完璧なデータを目指して努力を進めるが、各位のさらなる資料提供等を求める。

樋渡氏の図書館とも連動してデータ保存に努めている。

蔵本嗣治氏の協力もあり、国会図書館のデータを収集中。費用発生のため、当委員会で補助を行う。

③プレスリリースとして、名人位挑戦手合い、A級リーグ戦、珠王戦、などの取材依頼を、多くの報道機関へメールで発信したが取材はなかった。今後も全国規模の公式棋戦においては当委員会がホームページを含め情報の発信を行う事としたい。

少なくとも公式戦の成績等は理事メール等にて報告を各位に要請したい。

④国内外の連珠会から要請を受け、印刷物の配布、連珠盤などの寄贈を行った。

⑤理事長、事務局長の依頼を受け、荒谷支部長死去後の青森県支部の再構築に協力した。

⑥日本連珠サービスの協力を得て「河北新報」「陸奥新報」への詰め連珠を継続して出稿した。

⑦株式会社虹有社より故新井華石九段の著書「連珠必勝法」の改訂版発行に際して原稿を提供。

⑧日本遊戯史学会の総会(11/22 東京富士大学・東京)において「連珠ー先手必勝への挑戦」の演題で基調講演を行った。

⑨11/16、東京ビッグサイトで開催された東京ゲームマーケットの「伝統のゲーム／連珠」コーナーの運営出展に協力した(日本連珠サービス・東京連珠会の出展)

(5) 国際委員会

- ・第10回連珠チーム世界選手権戦(国別対抗戦)が平成26年4月27日～5月3日まで台湾・台北市にて開催され、日本から総勢12名2チームが参加し、3位・5位と健闘した。
- ・チーム世界戦の速報をはじめ、連珠ニュースレター、日本連珠社HPなどに連珠情報を発信した。
- ・海外からの問い合わせに対応した。
- ・開局規定の検討に関して、各国のメンバーと意見交換を行った。

(6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、706号から717号まで遅滞なく発行した。

公益社団法人日本連珠社
平成26年度事業報告

- ・事務局と連携し、【政府公報】の掲載、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。

(7) メディア委員会

- ・活動内容の主なものとしては、公式HP上において、各大会予告・結果報告(速報)、過去の名人戦記録・連珠古書関係のコンテンツ整備・更新等を中心として活動を行なった。
- ・その他の活動としては、各委員会の要請による公式HPへの情報公示を行なった。

(8) 珠規審議委員会

- ・『連珠／ルールブック』に明文化されていない問題提起事象の問い合わせに、その都度対応して回答した。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請を公益社団法人日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく審査認定した。例外事案発生に際しては、委員会の諮問決議を理事会議案として提議した。
- ・平成26年度昇入段者数は下表の通り。()内は推戴昇段者数。各地域での級位者戦優勝者の初段申請が近年顕著に減少している。公式棋戦参加費について日本連珠社会員優遇制度推進を課題としたい。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	延計
平成26年度	0	1	1	2	1	2	4	2	3	16 (0)
平成25年度	0	0	0	3	4	2	1	1	4	15 (0)
平成24年度	0	1	2	0	1	3	4	0	5	16 (0)
平成23年度	2	0	0	4	3	2	2	4	4	21 (0)
平成22年度	0	2	0	4	2	2	2	9(1)	7	28 (1)

(10) 名人戦運営委員会

- ・第52期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成26年9月に浜松市の<ホテル米久>で実施した。
- ・同名人位挑戦手合い5番勝負を、名人戦運営委員の協力で滞りなく実施した。ライブは好評であった。
- ・名人中村 茂九段が1勝1敗3分で、挑戦者大角友希九段を破り、全日本連珠名人位(第52期)を防衛した。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をR I Fに報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・公式棋戦の結果報告・棋譜報告が無い場合には、国際レーティングに反映できない。棋戦ごとの運営責任者が報告義務を負うよう、今後検討を要する。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・通信戦：第96回、97回の通信戦大会を実施した。『連珠世界』誌上で成績を発表した。
- ・詰連珠：通常の活動として、月例詰め連珠を始め、天狗道場、特別昇入段テスト、四追いコンクール、限珠案コンクールを開催した。『連珠世界』誌上で成績を発表した。

(13) 特別表彰制度

- ・平成25年度は特別表彰該当者なし。(小磯重正氏受賞辞退)